



第 3 3 号  
発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

同窓会報編集委員会

TEL・FAX (0761)21-6330

発行責任者 宮西 勉夫



新春  
随想

二十年を迎えた

# 関西小松同窓会

榎屋川市 本仁 久一郎

関西小松同窓会が発足してから、もう二十年になる。発足の年に生まれた子が小松高校を卒業して、成人式を迎えるわけである。誠に光陰矢の如しである。

思い返せば、昭和六一（一九八六）年八月十三日、甲子園に初出場した小松高校の応援に駆けつけた小松中学第四六期生十三人が、試合終了後も惜別の念捨てがたく、飲食を共にした席上で、関西小松同窓会を立ち上げようという声があがったのが、発足の端緒となったのであった。

続いて同年九月二十日、関西在住の四六期生十三人の他に、小松から安井健次郎、松下寛の両君、東京から本谷勇、中川巳代治の両君の計十七名、及び高校二〜三期生十五名を加えて、



写真は昭和62年3月14日、第1回関西小松同窓会での校歌斉唱

同窓会設立準備委員会を持つに至った。

そして翌昭和六二（一九八七）年三月十四日、松下精工（株）社長の鈴木忠夫先輩（第四二期）を会長

に迎えて、第一回関西小松同窓会が大阪全日空ホテルで盛大に開催された。

あれから二十年。同窓会発足の情熱を燃やした友の中から何人かが鬼籍に入り、また健康や家庭の事情から会合に参加できない友も多くなり、平成十七（二〇〇五）年の同窓会の参加者二五〇人中、四六期生は金戸宏正君と私との僅か二人だけであり、何とも寂しい限りであった。かつて同窓会立ち上げの原動力となつて、関西小松同窓会是我々が作つただと意気盛んであつた四六期の仲間たちの減衰に心痛むものがある。

中学三年生の時に敗戦を迎え、戦中戦後の大混乱の中を共に生き抜いた同期の諸兄よ。

全員四捨五入すれば既に八〇歳に達し、残りの人生もそう長くはないであろう。いろいろ事情もあるだろうが、健康と時間の許される限り関西小松同窓会に出席し、共に校歌を高唱し友情を暖めようではないか！

関東小松同窓会

第10回関東小松同窓会副幹事長

東京都 菅原 聡子

平成18年8月20日、品川の新高輪プリンスホテルに於いて第10回関東小松同窓会総会・懇親会が開催されました。小松からは栖川成人校長、吉田歳嗣同窓会長をお迎えし、当日の参加者は小松からの参加者も含め約320名でした。今回

同窓会  
情報

の担当幹事は29、31回生で、司会は31回生の上坂典子さんが務めました。

会計報告などの総会后、吉田会長、栖川校長により、現在の小松高校の様子が熱く語られ、続いて常任幹事の29回山本義之さんが新校舎について説明すると、会員は素晴らしい設備に感嘆。当日の最高齢参加者、中学38回の大垣方孝さんの乾杯の音頭に続き懇親会へ進むと、



「青春の面影を追って」

まずは「青春の面影を追って」というアトラクションで場内は笑いに包まれました。卒業写真と現在の会員を符合させるはずが、あまりの変貌ぶりに回答者の白江関東会長がお手上げとなり、「こんな人おらん」と発言する事態となりました。

和やかな雰囲気の中、引き続き会場は、ロックグループめんたんぴんのボーカル佐々木忠平さん(22回)のライブへと移行しました。バックのスクリーンに梯川の画像が映し出され、佐々木さんがこの夏に発表した「梯川純情歌」を歌いだすと、目頭を押さえる会員の姿が見られました。

幹事団の挨拶の後、次回の幹事団32、34回生の紹介があり全員で校歌を合唱して3年後の再会を誓いました。

今回の総会・懇親会では、準備段階の報告や各学年の参加者状況の公開など、総会前から会を盛り上げるのに関東小松同窓会公式ホームページ「だらな」が重要な役割を果たしました。地元小松のお店の広告なども掲載され、「いつでも同窓会」の広場となっています。

総会・懇親会の写真や報告記などもご覧いただけますので是非皆様も一度アクセスしてみてください。

<http://darana.gr.jp/>  
(高校29回)



佐々木さんの「梯川純情歌」

高校18回全国大会

小松市 杉永 信幸

2006ドイツ大会がジダンの頭突きとイタリアの優勝で終わった今年、四年に一度の恒例小松高校十八回全国大会が、ホーム栗津温泉の喜多八で開催された。召集幹事代表の佐々木均君が出席者を呼名100名の出席者全員、順次起立し、「はい」の大きな返事の後、連絡のあった物故の呼名と黙祷。「今日は、青春の話題を酒の肴にして、決して病気の話しはしないように。それから、ワールドカップ開催年の他、五輪の年も開催をとの意見もありますが、2年間で結論を出します。」と、田谷会長の隔年開催に含みを持った挨拶で開宴、延々、夜明かしの2次会、3次会を経て、明け方「朝夕仰ぐ白山や」で締めくくり朝食会場では栖川小松高校校長から拝借した小松高校PRのDVDを、200インチのスクリーンで鑑賞、散会した。我々卒業時、五百七十余名の団塊第一世代の十八回生も、来年は還暦となります。暇と寂しさから次回からは隔年開催となるかも知れません。

(高校十八回)



# 新校舎竣工記念 小松同窓会総会開催さる

平成18年7月1日



吉田会長 挨拶



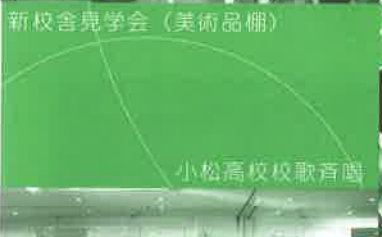
富岡省三写真展  
オープニングセレモニー



懇親会  
開宴挨拶  
副会長 忍



新校舎見学会 (美術品棚)



小松高校校歌斉唱



小松高等学校新校舎竣工記念祝賀会



小松高等学校新校舎竣工記念  
小松同窓会



県立小松高女校歌斉唱

平成十八年七月一日、新校舎落成記念を兼ねて、小松高校の講堂にて小松同窓会総会が開催された。

運井正亮副会長（中学45回）の開会の言葉に続き、校歌斉唱、吉田歳嗣会長（高校9回）の挨拶が行われた。会長からは新校舎建設に同窓生から多くの尽力を賜ったことに対してお礼の言葉があった。

続いて栖川成人校長（高校18回）から、新校舎完成の報告と感謝の言葉が述べられ、恵まれた学習環境で更なる発展を目指すという挨拶があった。その後、募金報告、十七年度会務報告、決算報告及び監査報告がなされ、十八年度の予算案も承認され、総会は滞りなく進行した。総会終了後は、多くの方が新校舎を見学された。新校舎の見学に際しては、在職中の先生方、職員の皆様が日曜日にも関わらず案内役を引き受けて下さり、新しく完成

した校舎内を丁寧に案内して下さった。新校舎の様子は、同会報第31号で披露されているが、県下一素晴らしい校舎が完成したことは、同窓生としても誇らしいことである。

併せて同日、富岡省三氏（中学46回）の写真展のオープニングセレモニーが記念館前で行われ、九月二十四日まで、記念館や校舎内に作品が展示された。

同日十八時からは、会場を小松グラウンドホテルに移し、竣工記念祝賀会が行われた。約二百六十名の方が出席され、三井淑朗氏の乾杯が始まった。会場では、あちらこちらで歓談の輪が広がり、またたく間に時が過ぎた。途中、佐々木忠平氏の歌が飛び出すなど大いに盛り上がり、小松中学、小松高等学校、小松市立高等女学校、小松高等女学校、小松高等女学校の各校歌が声高らかに歌われ、最後に、徳田八十吉氏の一本締めで式を締めくくった。



小松中学校校歌斉唱



小松高等学校新校舎竣工記念祝賀会  
小松同窓会



階段教室にて

小松市 杉林 憲治

六回目を迎えたホームスクールカミングデイが九月二十四日(日)に記念館階段教室で開催された。今回は今年還暦を迎える十七回生と初老を迎える三十七回生が出席。今年は新校舎落成の祝賀ムードが漂う中で行われ、人生の節目を迎えた私たちにとって感慨ひとしおであった。

数十年ぶり訪れた記念館は風雪に耐えた木々に囲まれ、何とも言えない静寂感の中にたたずみ、歴史の重みを感じさせてくれた。授業を聴くうちに青春時代の一コマが次々と蘇ってきた。そこで授業内容を紹介する前に、高校生活を過ごした昭和三十年代を振り返ることにした。

昭和三十年代は混乱と成長という二つの顔がある。戦後が終わり、先進国の仲間入りをめざす中、日米安保条約の改定をめぐる国論が二分。連日、国会を取り囲み激

しいデモ行進と機動隊との乱闘シーンがテレビや新聞で報道された。中学生だった私でさえ、この国はどうなるのだらうと不安に思ったものである。

私たちが高校に入学した昭和三十七年から四十年の後半は、池田内閣が打ち出した「所得倍増計画」の下で高度経済成長期を迎え、東海道新幹線の開業、名神高速道路の開通、そして三十九年に東京オリンピックがアジアで初めて華々しく開催され、日本が名実共に先進国の仲間入りを果たしたのである。

戦後の何も無いところから出発した親たちは一生懸命働き、この頃になると「三種の神器」と言われたテレビ、冷蔵庫、洗濯機の電化製品がどんどん家庭に入り、生活が豊かになっていく実感を味わうことが出来たのである。とりわけ、家に初めてテレビが到着した日の記憶があるかと聞かれると、誰もがその感動を昨日のこのように覚えてる。

交通の発展にテレビの普及が加わり、生活様式や意識は全国的に均質化していき、その後のマイカーやマイホームの獲得をはじめとする消費の充実に重点が移り、それはアメリカ的な消費生活が夢から現実になっていく時代のスタートでもあった。

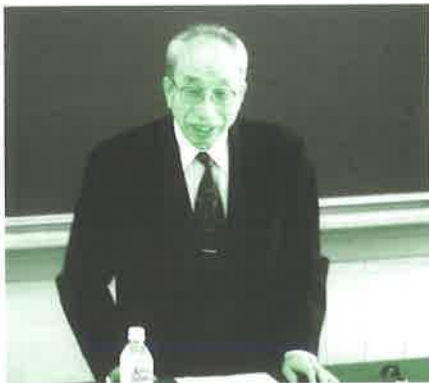
一方、豊かな生活がもたらしたもので忘れてならないのは高校、大学への進学率が上昇したことである。とりわけ高校への進学が急激に増え、県内でも公立、私立の学校が誕生した時期でもあった。あれから四十数年、高度経済成長からオイルショックを経てバブル経済の到来。良いことは長く続

かないとの例えどおりにバブル経済の崩壊、そして倒産、リストラという厳しい冬の時代を迎え、最近経済回復がみられるという目まぐるしい時代の中を潜り抜けてきたのである。

少々前置きが長くなりましたが、今年のホームスクールカミングデイの講師は数学の竹部義晴先生と生物の東徹哉先生。第1限目は竹部先生の演題「十七回生MS君の質問に答えて、場合の数と確率」。先生は先ず小松高校三年間の勤務を振り返り、模擬テストを徹夜で作ったこと、三八豪雪で苦労されたこと、松高出身者は少々のことまでへこたれず、初志貫徹型である。当時の印象を語られ「自分にとってその後の教師生活の中で小松高校の存在は重要であった」との話に胸が熱くなった。

また、今の若者を見てると現在指向で多楽型。日本の若者は豊かさと共に、夢や希望を持たなくなつた。このような価値観は、日本社会の未来を考えると、大きな影響を与えるのだらうとの警告は身にしみる言葉であった。

竹部 義晴 先生



東 徹哉 先生



数学を不得意だった私にとって先生は「数学は考え方を学ぶものである」と言われたとき、あの時もっと勉強しておけばなあとため息がもれた。

二限目の東先生は本校十一回の卒業生。昭和四十七年〜平成四年まで二十年間理科教諭として勤務。演題「高等学校『生物』の変遷について」であったが、竹部先生同様、講義時間の大半が本校での思い出に費やされた。赴任早々、校長から松高出身者だからポートに乗ったことがあるだらうから、とポート部の顧問になつたこと。石川イスターハイ(昭和六十年)石川国体(平成三年)で石川県の責任者として働いたこと等ユーモアたっぷりに話された、十七回生にとっては初対面だったにも関わらず、先生のざつとくばらんな人柄に惹きつけられた。

先生は「生物は何とも厄介なる教科である、進歩が早い」と、昔の分厚い教科書を持参され、今の教科書はこんなに薄い」と示され、一同驚きの声をあげた。懐かしかった授業の後、完成なつた校舎の見学。私たち





天守台下で懇親会

の入学した三十七年は防音校舎の建築中であり、一部木造校舎が一年生の教室として使用。三十八年二月に竣工した防音校舎も解体され、私たちがとって懐かしい木造校舎と防音校舎、そして真新しい新校舎にめぐり合うことになり、新校舎のすばらしさに感動すると共に、在校時の木造校舎での思い出が蘇った。

この後、恒例の天守台での懇親会に参加。吉田同窓会長の挨拶、栖川校長の挨拶に続いてプラスバンド部の生徒による「祝典序曲」が演奏され、しばし時の経つのを忘れて昔話に花を咲かせた。一同、天守台に登り往時を偲び、いつまでも青春時代に浸っていた。それぞれ顔を見ると、目は輝き上ずっていたと思っただけは私だけではない。たまたまのような気がしてなりません。

今回のホームスクールカミングデイのお世話をしていただいた多くのの方々には紙面を借りて心から感謝を申し上げます。(高校17回)

### エルサレム行

武蔵野市 柿原 秀嶺

昨年、イスラム教シリア派の民兵組織ヒズボラの拠点のあるベイルート(レバノンの首都)に対してイスラエル軍が大々的に攻撃を仕掛けているとの報道が連日ありました。

イスラエルの首都はエルサレム(正しくはイエルサレムII平和の門の意)。この街はユダヤ教の聖地であるばかりでなく、イエスキリストが十字架にかけられ「神よ何故この私を見捨て給うか!」と絶叫しながら三十年の短い生涯を終えた聖地でもあり、又それから約六百年後マホメットがメデynaで六十年余の生涯を閉じた後四十年を経てエルサレムの岩の上から昇天したとムスリム(イスラム教徒)が固く信じている聖地でもあります。

私は浄土系宗門の生まれ。ですから仏教についての知識は一般の人よりいくらか広く持っています。他の宗教特にキリスト教の知識をもっと修得した上で、改めて仏教を振り返って見たく思い、一年間毎日曜日、上智大学で旧約聖書を学びました。そしてその発生の地であるイスラエルを、エルサレムをこの目で確かめるべく、家族三人だけで旅立ちました。八年昔の夏のことです。

イエスの一番弟子ペテロ(元の名はシメオン)が漁を営んだガリラヤ湖、ヨハネがイエスに洗礼を授けたヨルダン川、イスラエル兵約千人がローマ軍と戦って全滅したマサダの砦、ユダヤ教とキリスト教に衝撃的影響を与えた死海文

書が発見されたワムラン洞窟等々忘れ得ぬ思い出の地は多々ありますが、紙面に限りがありますのでエルサレムの思い出二つだけを記すことにします。

その一。世界中から観光客の集まる旧市街はまるで迷路。目指すイスラム教の黄金のドームは遠くに見えながらなかなか辿り着けず、咽喉の渇きを癒すべく葡萄を買いに果物屋に入ったところ、偶然に出会ったのがヨセフ・ウオレス氏。「私について来ませんか」と言っただけの狭い旧道を案内して下さり、その途中「よかったですらどうぞ」と自宅に招いてくれましたが、何千年の昔もかくありしかと思われる岩をくり抜いた住居です。老夫婦とみて安心したのでしよう。

「このあたりは公衆トイレが無いから是非用を済ませて行きなさい」と言っただけのトイレを薦めてくれました。岩の住まいと言っても入口はレバノン杉の戸が入り口にあり、その周りはツタで覆ってなかなか立派なもの。別れの言葉が一生の思い出です。

日本へ帰ったら友人、知人の全てに必ず伝えて欲しいことは「我らイスラエルの民はいつの日か必ず、このエルサレムに岩を切り出して、モーセの五書、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記をすべてヘブライ語で刻み込んだ五つの塔を建てるのだ」と。

ウオレス氏はカレンダーの製作を生業とし、日本のメーカー凸版印刷社を、仕事は上手で納期を遅えたことが無い業者であると褒めていました。

その二。十字架にかけられる前夜、イエスが十二人の愛弟子を集め、

パンを裂き進めながら「これを我が肉と思え」、葡萄酒を注いで「これを我が血と思え」と今生の別れを告げた最後の晩餐の家が、今でも残されており、そのすぐ近くに、イエスが独り別れて血の汗を流しながら神に祈りを捧げたゲッセマネの園があります。ゲッセマネはオリーブ畑をしぼるの意味です。

イエスの時代からあるといわれるオリーブの大樹が数本、昼でもあたりを暗くするほど繁っており、その下に石碑が建てられ、次の文字が刻まれてあります。

My father! Let this cups pass me!  
Never the less, not my will, but yours be done!

イエスは常にヤハウエの神に祈るとき必ず我が父よと呼びかけたと言われます。

この盃は出来れば私は飲みたくはない。

しかし、神よ貴方の意志がそうであるなら私はそれに従って飲みます。

と言っているのです。私はここで立ち尽くしました。そのすぐ脇に小さな教会があります。その入口に

No exaltation in this church.  
と、書かれてあります。

観光パスのガイドさんでも、ここでは一切の発言を禁じてあり、唯祈るだけ求めているのです。全ての宗教の究極の姿はまさに祈りに尽きると私は信じております。

この教会で数人の信者が聖書を抱きこんだままの姿で、静かに祈りを捧げていました。生涯忘れ得ぬ光景です。(中学37回)



### 「梯川純情歌を歌う」

静岡県 佐々木 忠平

梯川の歌を作った。2006年の夏と秋に、僕はこの歌をいろんな場所で歌った。梯川の土手で少年の自分と出会った。道に迷い、今定まらぬ自分と出会った。内側がそれを求めた。小松を嫌い、またそれ以上に愛する自分がいた。過去を恐れ、また、なつかしむ。生きることを望み、ある時は絶望する。相反する思いがグルグル身体の中を駆け巡る。アイロニー。矛盾。そう、それが人生だ。

「歌で和す」。今、日本人が一番求めている事ではないか。歌を唱和し、物語と感動を共有する。芸能という文化をもっと認識せねばいけない。芸能・文芸から遠く離れた場所、国の政治と経済を語っても詮無い事である。

70代や80代のお年寄りの方々が、僕の歌を聴いて、CDを買って下さった。「毎日聴いとるよ」と言われた方もいる。思えば、戦前、戦中の人たちである。僕の父母の世代から愛められたとは、僕にも思わなかった。身に余る光栄である。戦争で青春を失くされた人たちが口マンチックなのだ。これもアイロニー。いや、必然か。

天守台に駆け登り、小松高校を横切り、芦城公園を散歩する。丸内の実家に居る時は、大抵、日に一度はこのコースを歩く。桜のとき、青葉のとき、そして冬のと看。青春。年老いる自分。でも、その光景は変わらない。答えも無く、じっとそこに有る。故郷とはそういうものだ。何も語らず、じっと見ている。

僕は、僕のちっぽけな物語を、風に語る。風は松の枝を振り抜く、梯川の上を走り、安宅の海に抜けてゆく。厚い雲の中に消えてゆく。我が学び舎と我が恩師

### 梯川純情歌

あの頃に帰りたい

作詞・作曲 佐々木忠平

たちは、いつも優しく僕の背中を押してくれた。僕は歌を作り続ける。それは先人の想いである。松林の風と、安宅の海の太陽と。その下で生きた人の、忘れてはならない想い。一つの歌が僕を救ったのだ。(高校22回)

嗚呼 風の匂い 梯川だね

思わず 歩きたくなる

なにも変わらないな

嗚呼 眩しかったな 梯川だね

辛をかけた 走っていた

砂利の道を

ハツクルベリーフィンたちは

何処に行ったの

いつも元気に輝いていた少年たちは

草の葉がゆれる 思い出がよみがえる

白いシューズとセーラー服が踊っていた

嗚呼 あれば春だった 冬の終わりを

待ちわびていた二人で

初めてのお恋

嗚呼 そうだったな あの頃に帰りたい

積もる雪をみつめていた喫茶店の片隅で

嗚呼 そうだったな あの頃に帰りたい

濡れて走った 夕立の中

夏の嵐がよみがえる

立ち止まり 目を閉じれば



### 「故郷、音楽シーンを盛り上げたい」

石川県小松市の

音楽シーンを

盛り上げたい

東京都 木村 佳代子

小松高校卒業後、大学進学のため上京して約二十年の時が過ぎた今年十一月三日に、JR小松駅高架下市民交流施設「ザ・マツツ」のこけら落としイベントを企画、構成し、出演する機会に恵まれました。約十年前から本格的にプロの音楽家として活動してきた出逢った中で、国内外で活躍してきて高い評価を得ているマンティ満ちる他、大勢の素晴らしいミュージシャンやスタッフと共に、大盛況へと導く事が出来ました。

これまで、何事においてもそうであったように、メディアでの露出度やネットバリューに惑わされず、「自分の眼で見極め」「その瞬間の直感を尊重し」尚且つ故郷小松の音楽シーンに今までは少し違った風を吹かせてみたい、私も体験してきた音のいい刺激を少しでも多くの人々に味わってほしい、という一心で数ヶ月間頭脳も体力もフル回転で頑張りました。

小松、中学生時代はブラスバンド部に所属し、トランペット、クラリネットを演奏していました。母に連れられて郷土民謡の教室に通い、唄ったり、横笛を吹いたりしていました。きつかけはただ「好き」という事だけで、自然に吹奏楽、音楽と共に生活していました。小松高校時代は、様々な理由からクラリネットでの音大進学を断念していた事

もあり、吹奏楽部に所属したのは一年だけ、それ以降は徐々にニューミュージックに傾倒していきまし。好きなアーティストのレコードやラジオ番組を聴きまくる。コンサートにもよく足を運び、クラシックや歌謡曲以外の音楽に初めて出逢って、どんな夢中になり、「とにかく上京して私は音楽をやろう」と決心したのもこの時期だったと記憶しています。

プロになるまで、そしてなつてからも、ここには書ききれないくらいいい事も、そうでない事も沢山ありましたが、特に世界的に活躍する方々とのレコーディングやコンサートツアーを経験すればする程、自分の音楽のルーツになぜか益々興味湧いてきて、近年は石川県でも時折、郷土民謡を交えながら、兼六園や宮本三郎美術館、粟津温泉北森酒造酒蔵など、様々な場所で演奏するようになりました。

美麗で素朴な故郷、石川県。文化芸術面で特に工業部門で名高い小松市が、今回のような音楽イベントに本格的に力を注いだということは、ちよつとした革命と言つても過言ではないと感じています。

こけら落としの約一週間後、同じ会場、小松の中学、高校生を中心としたアマチュアバンド大会が開催され、審査員をさせて頂いたのですが、あまりの技術の高さと魅力に圧倒され、終始釘付けとなり、嬉しくて涙が出てしまいました。「HOPE」を感じて「POSSIBILITY」を強く感じました。

石川の文化、芸術の未来は明るいと感じています。オープンマインドで、全く異なるキャラクターを持つ、隣県富山、福井とも積極的に交流を深めてジャンルを問わない、いい意味でポータブルな面白いイベントや作品が絶えず、微力ではありますが、チャンスがあれば出来る限り、私も参加し協力していければと思つております。そのためには、自分自身も努力を怠らさず、常に一線では活動し、もつともつといるいるな国々の音楽や人々と、直接触れ合つて刺激を受け吸収してこよう、希望にあふれた気持ちで一杯になつていきます。(高校39回)

# 文武両道

## 平成18年度新人大会等 部・同好会成績

陸上競技			
国民体育大会県予選	男子 円盤投	優勝	佐々木 駿
国民体育大会	男子 円盤投	3位	佐々木 駿
県高校新人大会	男子 円盤投	優勝	佐々木 駿
	男子 やり投	5位	佐々木 駿
	男子 砲丸投	6位	佐々木 駿
	男子 八種競技	5位	杉元 順也
	女子 円盤投	3位	横山 明果
北信越高校新人大会	女子 3000mW	3位	池田 愛深
	男子 円盤投	2位	佐々木 駿
	女子 3000mW	6位	池田 愛深
カヌー			
北信越国民体育大会	男子 C-2	2位	飯田 涼太 河口 武紀
	男子 C-1	2位	二木 達博
	男子 K-1	2位	北本 直己
国民体育大会	男子 K-2	優勝	奥田 修平
	男子 K-2 500m	7位	奥田 修平
県高校新人大会	男子 K-2 200m	5位	奥田 修平
	男子 総合	優勝	
	男子 K-1	2位	奥田 修平
		3位	北本 直己
	男子 K-2	優勝	奥田 修平 北本 直己
		3位	本保 浩太 池田 晋吾
	男子 C-1	優勝	飯田 涼太
女子バレーボール			
加賀地区高校選手権大会		2位	
男子バレーボール			
県高校新人大会		3位	
弓道			
加賀地区高校大会	男子 団体	2位	
	男子 個人	優勝	福田 一樹
北信越国民体育大会	女子 個人	3位	中 ひとみ
	男子 個人	6位	福田 一樹
県高校新人大会	女子 団体	2位	
サッカー			
全国高校選手権大会県予選		3位	
県高校新人大会		ベスト16	
ソフトテニス			
小林杯	女子 団体	3位	
加賀地区夏季大会	女子 団体	3位	
	女子 個人	3位	室谷 理沙 奥村 友菜
		3位	奥 悠梨子 酒井 愛美
	男子 個人	ベスト8	滝ヶ浦 佑介
	加賀地区新人大会	女子 個人	ベスト8
ベスト8			奥村 友菜 奥 悠梨子
男子 個人		ベスト8	酒井 愛美 浜 咲季子
		ベスト8	松下 可奈 滝ヶ浦 佑介
		ベスト8	吉藤 耕太 中田 拓也
加賀地区秋季大会	女子 団体	2位	道本 泰一郎

ラグビー			
全国高校選手権大会		3位	(県工との合同チーム)
ハンドボール			
県高校新人大会	男子	ベスト8	
	女子	3位	
テニス			
県高校新人大会	男子 団体	ベスト8	
	男子 個人	ベスト8	川端 敏明
トヨタカップ県予選	男子 個人	優勝(県代表)	川端 敏明
山岳			
県高校新人大会	女子 団体	優勝	巖野 友梨香 宮本 祐子
バドミントン			
県高校新人大会	男子 団体	ベスト16	
	女子 団体	ベスト16	
	女子 個人シングル	ベスト16	室田 麻衣
ボート			
県高校新人大会	男子 Wスカル	3位	河原 一樹 河崎 鉄平
	男子 クォドルプル	優勝	
	女子 Sスカル	優勝	吉田 春菜 山村 紋加 小嶋 康代
	女子 Wスカル	3位	吉村 浩 窪田 佳枝
		2位	Aチーム
	女子 クォドルプル	3位	Bチーム
水泳			
県高校新人大会	男子 400m 自由型	2位	大野 友嗣
体操同好会			
北信越国民体育大会	男子 個人総合	2位	黒川 昌悟
県選手権大会	男子 団体総合	2位	
	男子 個人総合	2位	黒川 昌悟
県高校新人大会	男子 個人総合	6位	竹内 真樹
		2位	黒川 昌悟
		3位	竹内 真樹
少林寺拳法同好会			
少林寺拳法県大会	団体演武の部	最優秀賞	
	男子 組演武	最優秀賞	松岡 竣作 阿部 友敬
	女子 単独演武	最優秀賞	高 沙織
放送			
県高校放送作品コンクール	第二部門(録音構成)	優秀賞	藤村がく(フリー)
県高校放送コンテスト	新人大会 アナウンス部門	入選	里見 優美子
吹奏楽			
県吹奏楽コンクール		金賞	(県代表)
北陸吹奏楽コンクール		金賞	
ESS			
県高文連スピーチコンテスト		5位	高木 太平
新聞			
県高校新聞コンクール			論説賞・奨励賞
文芸			
田鶴浜大句会	兼題の部	秀逸	河野 百合子
県高文連文芸作品コンクール	詩部門	優良	河野 百合子 大畑 真依
かるた同好会			
全国高校かるた選手権		準優勝	本多 未佳
石川県かるた選手権 A級		優勝	本多 未佳
全国公認北国大会	A級	2位	本多 未佳
将棋			
県高校新人大会	男子	優勝	北村 憲太郎
読書感想文			
県読書感想文コンクール		優良賞	井家 歩美



### 学校だより 社会人講師による パネル ディスカッション



11月3日(金)オープンスクールに、本校卒業生での各分野の企業等で活躍中の石田昭人氏(京都府立大学助教授)、向井すみ恵氏(全日空客室乗務員)、蕪城哲平氏(弁護士)、安藤 謙一氏(本田技研株式会社 空力開発業務)をパネラーとして迎え、1年生対象にパネルディスカッションをおこないました。各講師から、現在の仕事、研究内容、仕事のやりがいや辛かったこと、高校時代の勉強法や文理選択などについて熱く語っていただきました。この会でのことを参考に、自己の将来の生き方について考え、職業に対する意識を高め、将来の職業を見据えた進路選択の一助になったと思います。

#### 生徒の声

・自分に仕事に対する「熱意」、「楽しさ」が伝わってきた。自分の仕事に誇りを持つことは

素晴らしいと思う。

・本を読むこと」の重要性を痛感した。「考える」、「話す」につながる大切な力であり、目標を持つて本を読んでいきたい。

・講師の方の話で共通していた意見として①体力勝負、②コツコツまじめに、③読書が大切があった。自分の将来の志望に近い人の話を聞くことができよりやる気が出た

・卒業生の方だけに親近感が湧いたことは勿論、将来が見えない自分にとって、色々な分野の人との交流できたのは貴重な機会であった。

個性豊かな方々で飽きることなく興味深く話を聞けたかった、自分の進路について考えるきっかけになったなど、良かったという意見がほとんどでした。



### 高校創立記念講演会

2006年10月6日、小松市公会堂において、東京工業大学教授の本川達雄氏を講師に迎え、創立記念講演会が行われました。

本校は今年度より5年間、スーパーサイエンスハイスクールの指定を新たに受けており、生徒の科学に対する関心を高める機会にもなるよう、本川先生をお招きしました。

本川先生は『ゾウの時間・ネズミの時間・私の時間』という演題で、生物と時間の関係について、自作の歌を交えながらお話されました。生物ごとに流れる時間は異なっているが命の尊さは同じであること、西洋人と東洋人で時間の捕らえ方は違っていることなど、わかりやすく丁寧な言葉で教えてくださいました。生徒たちは先生のお話を関心を持って聞き、講演後にはたくさん質問がありました。質問の中には進路に関するものもあり、それに



対して先生は、「自分の好きなことだけをするのではなく、嫌なことでもしなければいけない。それが大人であるということだ。」と答えられ、生徒たちの今後に大きな示唆を与えてくださいました。

本川先生の講演を聴いて、生徒たちは、命や時間に対して新たな視点を見出すことができたと思います。

### 編集室だより

#### 新年あけまして おめでとうございます

本年も会員の声や同窓会活動、学校の現状などを紹介して参りたいと思います。いつでも、どんな事でも結構です。皆さまの思いを投稿してください。

原稿は小松同窓会事務局宛に送付していただくか、E-mailでお送りください。

E-mail: matsukou@tvk.ne.jp

ホームページ:

<http://tensyudai.client.jp/>

現在「天守台」発行部数は5,000部(年2回発行)です。送付ご希望の方は、郵送料として1,000円を同窓会事務局までお送り下さい。五年間(十回分)お送りさせていただきます。